

帯広農業高校学校林でのカラマツ再造林の取り組みと エゾヤチネズミの発生・食害の状況について

北海道帯広農業高等学校 森林科学科

藤原万尋 人見紗有里 今井ゆい 栄前田穂華 蓮井颯太 本間輝

研究の背景・目的

本校の学校林には約10haのカラマツ人工林があります。高齢林分、造林地ともに野ネズミの食害を受けていることから、2009年度の途中からエゾヤチネズミの発生予察調査を行っています。これまで行ってきた調査結果およびカラマツ人工林での再造林や森林調査を通じた学習についてまとめ、今後の学校林管理に活かしたいと考えました。

研究の内容・成果

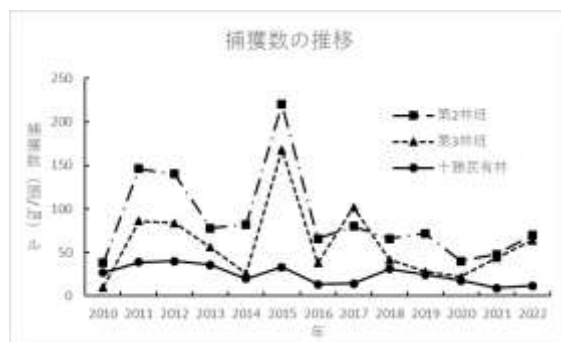
1 エゾヤチネズミの発生・食害状況について

1) 2010年以降、毎年6月・8月・10月に2つの調査区で発生予察調査を行いました。捕獲数の増減の傾向は十勝の一般民有林とだいたい一致しています。捕獲数は一般民有林の3倍程度と、生息密度が高いことが伺えます。

2) 食害を受けて枯死する個体はあるものの、食害を受けた前後で成長量は減少しないことが年輪解析から読み取られました。

3) ササ地での捕獲数が多く、下刈り区での捕獲数は対照区に比べ少ないことから、防除には下刈りが有効であると考えられました。

4) 春に植え付けた苗木がその年の秋や初冬に食害を受けることがあることから、発生が多い年は10月に防除を実施することが必要であると考えられました。



2 カラマツ林の育成学習

1) 2011年以降、主伐と再造林を実施しています。エゾヤチネズミの食害以外と考えられる原因により消失した造林地もありました。

2) 学校林にない林齢のカラマツ林の姿と管理を学習するため、帯広市の市有林で調査、除伐、枝打ち、選木の實習を行いました。

3) 2019年に植栽したクリーンラーチの造林地は食害が極めて少なく、生育が順調です。

今後の展開

1 エゾヤチネズミの防除について

1) 捕獲数が多く、被害も多いことから学校林でのカラマツ再造林には防除が欠かせないことが理解できました。防除対策として下刈りを行い、殺鼠剤散布は10月頃には行うべきであると考えます。

2) 枯死しない程度の食害であれば成長には影響しないことから、食害の拡大を防ぎながら、長伐期施業を行うことも可能だと考えられました。

2 カラマツ林の育成について

1) エゾヤチネズミによる食害以外の理由で消失した原因を明らかにし、造林地の造林適地を見極める能力を身につける必要があります。

2) 帯広市はカラマツ林の生育に適していて、今後もカラマツを中心として再造林を行っていくことが望ましいと考えています。